



雷神雷門

# The Door Step to Japan

## vol.51

2024年 秋冬号

日本の扉  
**浅草**  
浅草・槐の会  
ASAKUSA

### 令和六年甲辰

### 令和七年己巳

|             |  |             |  |
|-------------|--|-------------|--|
| 七月<br>(文月)  | 九、十日 四方六千日(ほおずき市)<br>二十七日 隅田川花火大会<br>三十一日 台東結核 | 一月<br>(睦月)  | 初詣<br>浅草多所七福神もろて                                 |
| 八月<br>(葉月)  | 十五日 万霊燈籠供養会                                    | 二月<br>(如月)  | 三日 節分の日<br>八日 針供養                                |
| 九月<br>(長月)  | 二十三日 彼岸会<br>十五日 浅草サンバカーニバル                     | 三月<br>(蛸巻)  | 十八日 浅草観音示現会・金龍の舞                                 |
| 十月<br>(神無月) | 十八日 金龍の舞<br>菊供養                                | 四月<br>(卯月)  | 八日 新嘗祭(花まつり)<br>九日 白鷺の舞<br>中旬 浅草流鏑馬<br>中旬 早慶しがっや |
| 十一月<br>(霜月) | 三日 白鷺の舞<br>五、七、二十九日 酉の市<br>十五日 七五三             | 五月<br>(皐月)  | 五日 雲の舞<br>十、十八日 三社祭<br>三十一日 お富士様の植木市             |
| 十二月<br>(師走) | 十七、十九日 歳の市(羽子板市)<br>三十一日 除夜の鐘(弁天山)             | 六月<br>(水無月) | 一、二十八、二十九日 お富士様の植木市                              |

※ 催事日程につきましては変更になることが御座います。予めご了承ください。

# 浅草を彩る9月~2月の代表的催事

9月

長月

彼岸会

● 9月23日

お彼岸は、気候もよく太陽が真西に沈むこの時期を修行にあて、太陽の恵みに感謝し五穀豊穡を願う祈りに端を発しています。浅草寺では、五重塔に霊拝を安置しているご信徒に拝殿を開放し、自由に参拝していただいています。

10月

神無月

金龍の舞

● 10月18日

浅草寺の正しい名称は「金龍山浅草寺」といいます。金龍山の山号は、浅草観音承応縁起に書かれている「十八日、寺辺に一夜にして松千株ほど生ず、三日を過ぎて天より長さ百寸ばかりの金鱗の龍、松の中に下りし」に由来しています。この故事を踏まえて創作された舞が「金龍の舞」です。毎年3月と10月の18日に、いなせ半纏、はらがけ、もも引きの江戸っ子姿の浅草寺舞保存会メンバー9名の手によって勇壮に演じられています。



10月 浅草菊花展



11月

霜月

白鷺の舞

● 11月3日

今でも浅草は江戸の名残を最も色濃く残す町、東京の代表的下町として全世界の人々の人気を博しています。平成元年11月3日から始められた「東京時代まつり」は、東京の歴史と文化の原点は浅草であるという観点から、江戸・東京の歴史絵巻の行列が浅草の町を行進します。さまざまな時代絵巻は、多くの観客を集める催しとなっています。この時代絵巻の一つに白鷺の舞があります。白鷺の舞は古い時代の祭礼行列の中にある「鷺舞」の姿を浅草観光連盟が復興したものです。

酉の市

● 11月5・17・29日

酉の市は、秋の収穫期に神社に鶏を奉納した「とりまつり」に由来し、神社から農家に授ける熊手が「とりこむ」ということで縁起が良く、商売繁昌を願う催しとなりました。酉の市で有名なのが浅草・千束にある鷺（おとり）神社。その愛称である「おとりさん」がいつしか酉の市のことを指すようになりました。酉の市は11月の酉の日に関われます。三の酉までである年は火事が多いという俗説があります。火の用心にはお気をつけ下さい。



11月 白鷺の舞

12月

師走

納めの観音、歳の市《羽子板市》

● 12月17~19日

毎年観音様の御縁日である18日の前後を含めた17、18、19日の3日間行われており、もとは正月の飾り物などを中心とした市でした。今でも観音北側の広場では、しめ飾りなどの卸売りをするお店も立ち並び通常「ガサ市」と呼ばれ、これを小売りする人達が仕入れにきています。江戸末期より「生まれた子が邪気をはねのけ健やかに育つ市に通じる」との謂れから女兒の出産には必ず羽子板を贈る風習が始まり、今では「羽子板市」と呼ばれるようになりました。



1月 浅草観音初詣

1月

睦月

浅草観音初詣

● 1月1日

除夜の鐘と浅草寺開扉とともに始まる初詣。正月期間中、表参道である仲見世をはじめ境内は華やいだ人々で埋まります。

2月

如月

節分会

● 2月2日

節分とは一年の春夏秋冬を分ける言葉で本来年に4回あるはずですが、現在では立春の前日のみをさしています。浅草寺では1時と2時の2回にわたり、信徒の有志が年男となり本堂東側回廊の舞台上、また西側影向堂の舞台では観光連盟主催による豆撒きが古式追儀式の終了後2時半~6時までの間5回に分けて行われています。



1月 江戸消防記念会・はしご乗り

## 9月~2月 その他の催事

- ◆ 七五三加持会……………11月15日
- ◆ 除夜の鐘……………12月31日
- ◆ 浅草名所七福神詣り……………1月1日~
- ◆ 江戸消防記念会・はしご乗り……………1月6日
- ◆ 待乳山聖天・大根祭り……………1月7日
- ◆ 針供養……………2月8日

※催事日程につきましては変更になることが御座います。予めご了承ください。

第十五回

「吉原の歴史・前編」

# 浅草寺子屋

講師  
荒井修



この記事は2009～11年に文化・芸術・観光のまちづくり協会が主催した「浅草寺子屋」の内容を再現したものです。講師を務めたのは我が槐の会のメンバーであった荒井修氏。浅草の老舗舞扇店「荒井文扇堂」の四代目店主です。この講演のおよそ5年後、2016年2月22日に逝去されました。浅草や江戸の文化に精通し、浅草の町興しのオピニオンリーダーでもあった氏の知見を後世に伝えていくために、小誌ではこの記事を企画しました。

江戸開府からほどなく整備された吉原



今日は吉原の話をしたいと思います。芝居町の猿若については以前お話ししましたが、どちらも別の地域から浅草に移ってきた町です。江戸時代のわりと初期に移転したのが吉原で、猿若はだいぶ後なんでね。

江戸に幕府が出来ると、周りの地域から大工さんとか左官屋さんとかいろんな職人が集まる、武士も集まる。そうなると江戸の中ってというのは男ばかりになってくる。だから女性がいてほしいと男は思うものでありますが、いろんなところに遊郭がチャラチャラと営業しては困るということで。

庄司甚内（甚右衛門）という人なんですけど、何とか一つにまとめたと言い出すんです。葺屋町、今の人形町ですな、そこに遊郭をまとめることが出来た。でもあちらでは40年くらいしか営業していないんです。明暦の大火だとかがあって、江戸城の近くに置いちゃいけないと場所が移るんです。移った先が浅草の吉原で、当初は新吉原と呼ばれました(図1)。開府が1603年で、葺屋町に許

可されたのが1617年ですから、すぐですよ。少しでも早く欲しいという。1657年に大火があって、浅草に移った新吉原はその年にもう出来てます。江戸城から見て北にあったんで北国ほくごくと言われていたんですけどね。

火事の際に困る吉原特有の規則



まあ世間相場としてそういうものは作らなきゃいけないという気持ちはわかる。その代わり、お客さんは1泊のみで連泊させちゃいけないよと決まりを作る。騙されて売られてきた娘たちは調査の上、親元に帰すという規則を作る。それからもし吉原の中に犯罪者がいた場合は、すぐに届けると、この3つの約束事を取り付けた。これを条件にこの願いは受理されてるわけです。そして吉原が出来た後は、江戸市中には一切、遊女屋を置かないと。市中に遊女屋の女性を派遣することはいけません。それから遊女屋の建物とか着るものは派手にしちゃいけないというのが、後に付け加えられております。

この吉原というのとはにかく特殊なところですから、特別なルールがいっぱいあります。

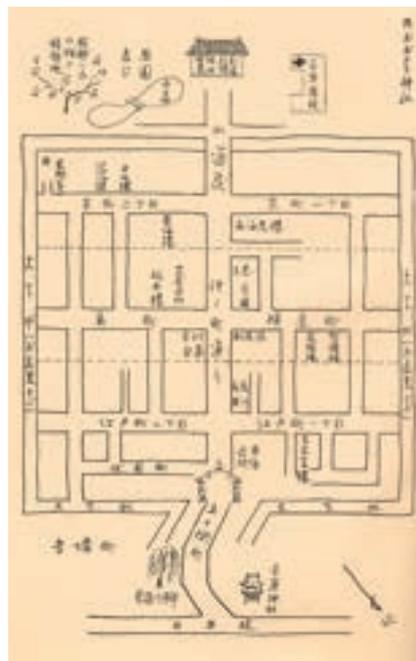


図1：新吉原略図

江戸っ子のルールでいうと、たとえば隣町が火事だなんていうと、周りの町会やらみんなこぞって火を消しに行く。これは隣もん同士、当然のことというんですけど、吉原については、周りが火事になったとしても、手伝いに行かなくてもいいよっつう、お許しを頂いています。その代わり吉原が火事になると、周り近所が入ってこないんですね。だから吉原の火事というのはわりとすぐに、全焼してしまうことが多かったようです。

「お茶を引く」のは客が付かないのではなく



もう一つ、吉原に課せられた義務といえますかね、お役があるんです。江戸時代には北町奉行所、南町奉行所というのがあって。北町は今の東京駅の辺りで、南町は有楽町の辺り。何か難事件を解決して、大変な功績があったっていうと、みんなで宴会をやりますな。奉行所の人たちが。この時は連中を慰労する

ために、代わりばんこに女性が行ってお琴を弾き、三味線を弾き、踊り、あるいはお茶を点てるというようなことをしなくちゃいけない。これ当番制ですから、「次に何かあったらあなた行きなさいよ」と先から言われてるんです。「最近ミヨシ町の方ではこんなことがあったから、そろそろ呼ばれるかな」という頃になると、石臼で当番の大夫がお茶を引くんです。お茶を点てなければいけないからね、お抹茶にする。それをやる時には仕事は休んでいいんです。有給休暇。これが「お茶を引く」ですから。お茶を引くって言葉は客が付かないってことじゃないんです。これをよく間違えてる人がいる。準備のためにお茶を引いて待ってていいよ、出なくていいよというのが語源なんです。

吉原には語源がいっぱい「冷やかす」の意味は？



語源っていうのは吉原には他にもいっぱいありましてね。日本堤の方へ行くと紙洗橋(図2)なんてあるでしょ。頭の髪を洗うのかというそうじゃない。ペーパーの方の紙です。古い手紙やなんか、そういうのを煮て溶かしてもう一度漉いて、再生紙を作るんです。そういうところが紙を漉いて干しておく。干してる間は何にもやることがないんです、紙漉き職人というのは。それでしょうがないから吉原の中に入ってね、きれいな女性なんか見てポーっとして。干しておくことを「冷やかす」というんですけど、そういうのを牛太郎(遊女屋で事務・客を扱う男子従業員)な



図2：山谷堀公園には紙洗橋の親柱が残っている

んかは呼んじゃうんです。そうすつと「ちょいちょい、あんなの呼んじゃだめだよ、ただの冷やかしの客だよ、ありゃあ」なんて言って。それが「冷やかし」の語源ですから。まだいろいろあるんですけどね。あたしの話、いろんなとこに飛んじゃうんでね、元に戻ります。

こういう約束はいろいろしたんですけど、幕府の許可のない、岡場所というものがわりといつまでもあったようです。よく出てきますでしょ、頭からこうきを被って、口で手ぬぐいの端をくわえたりなんかしてね。船に女性と一緒に乗って、どっかに船が着く。船頭は切り返して、「ちょっと煙草切らしたんで行ってきやす」なんて気を利かしていなくなつてね。そうすつと船の中がそういう場所になったなんていうのもよくあったようです。

### 幕府にとっても大きかった冥加金

それまで旧吉原は大体二町四方の場所だったんですが、浅草に移ると三町四方ということで土地が広がるんです。幕府から1万5千両出てるな、これを建てるのに。幕府にとってプラスになる材料としては、冥加金、上納金というものが吉原から送られてくるんです。これは大変な金額でしょうな。とにかく江戸三千両と言われて、江戸の中で1日に千両の売り上げをあげたところというのが、日本橋の魚河岸、芝居小屋、そしてこの吉原ですからね。江戸三千両という当時の錦絵みたいなものがあるんですが、これを見ると真ん中にタイがこう跳ねてる絵なんだね。その後ろに定式幕、緑と茶と黒と。その脇に鎖が繋がったような「吉原つなぎ」。吉原つなぎっていうのはよくお芝居の中で、金棒引きというのが、花魁道中の前に出ますね。左右から前髪のある若い男が紋付袴に半纏で、じゃらじゃらじゃらって金属製の棒を鳴らして、提灯を持ちましてね。その半纏の柄が吉原つなぎという吉原独特の柄です。



図3：お歯黒どぶの跡。手前の低地がお歯黒どぶだったところで、当時の大谷石の石垣が残っている

### 四方を囲んだお歯黒どぶ 足抜けは意外と少なく

どうしても残したいと言って残ったのが新吉原。その分、湯女を置くお風呂屋さんを許可しないようになる。200軒潰されてます。新吉原は地図を見てわかるように、入口は北側だけなんです。江戸城の反対側だけ。水道尻は囲まれてて、この先はないんです。どの角でも遊女が逃げようとするですぐわかるんです。

周りにお歯黒どぶというのがあります(図3)。一番最初は幅5間9mの掘割だったんですけどね。段々狭くなってきて、これを破って逃げようという人がそんなにいなかったみたいなんです。そのうち2間幅3.6mになり、最後は名目だけのものになっていく。

ここんところ(吉原の北東側)にずっと日本堤、土手があります。この土手が高さ大体8尺から11尺っていうんですから、2m40cmから3m30cmくらいの間ですか。そんなくらいの高さで続くわけです。これが聖天町から日本堤まで土手八丁。「梅は咲いたか」という歌にもありますが、「土手八丁吉原へご案内」って。

### 衣紋坂が曲がっている理由は将軍の鷹狩り

この衣紋坂、別名五十間道ともいうんですけど。ここで着物の襟をちょっと直すんです

ような。見返り柳(図4)から道が少し曲がってるのがわかるでしょう? ヘンでしょう? 他は全部直線なのに、ここだけ曲がるんです(図5)。これは意識的に曲げて作ってあるんですね。なぜかという将軍が千住の方に鷹狩りに行く。ここを通った時に、ちょっと脇を見ると、「ばかに派手にやってるじゃないか、あそこは何だ」と聞かれたくないがために、見せないためにここを曲げてあるんです。それでも怪しいですけどね。何にもないところにあんなに人が行くわけないんだから。

この衣紋坂をずっと行くと、大門のすぐ脇の右っ方のところに四郎兵衛会所なんていうのがあって、遊女が逃げないように見張っているところなんです。それで左の方に門番所があります。これは、手配されてる罪人が入ってこないように置いてあります。

### 五丁町に入らない揚屋町とは?

それから仲ノ町というところは縦が約270m、横が約360mあるんです。水道尻までが135間といますけどね。絶対どこの家も北枕にはならないようになってるわけでありまして。で、よく助六のセリフに「この五丁町へ脛をふん込む野郎めらは」てなことを言うでしょ。右に江戸町一丁目がある、江戸一。左に江戸二。この辺が揚屋町(右中段)。この辺(左中段)が角町。水道尻のところに行って京町一丁目(右)、二丁目(左)、京一京二といますけどね。すると六つあるじゃ

図4：現代の見返り柳。手前が日本堤でガソリンスタンドの角を曲がると衣紋坂



図5：衣紋坂。S字カーブが今も残っている

ねえかと。なぜそれを五丁町と言うんだと思うかもしれませんが、この中の揚屋町だけが五丁町に入らないんです。なぜかっていうと、揚屋っていうのは、花魁たちの一行と客はですね、食事をしたりするんですな。

よく初回、裏を返す、三度目からは馴染みというんですけど。最初に会った時、裏を返した時は揚屋でごちそうしなくちゃいけない。これはお金のかかるしきたりなんですけどね。それから揚屋に向かってのこの道沿い、待ち合わせの辻というのがありましてね。しょうぎに…、こういう将棋じゃないですよ、床机です。椅子みたいなやつね、毛氈の敷いてある。そういうところでお客さんと待ち合わせをして一緒に行くんですな。そういうシステムもあります。

### 名前も恐ろし気な羅生門河岸の実態

で、揚屋を使うのは、この辺のいいお店だけ。大店と中店だけなんです。お安い所というと、この江戸二の手前に伏見町というところがあります。伏見町ってのは大変安いんですね、よそから比べると。「仲行ってきたよ」「どこ?」「伏見町」「そうだろうな!」なんてことを言うんですけど。あるいはこれよりもっと安くなると、こっち(右)の際、浄念河岸というふうに言います。もう一方の際には羅生門河岸。これはすごいですよ。あの「羅生門の鬼」って物語、ご存知ですよ。鬼がガツつかむところを斬る物語がありますけど、この辺りに行くとお客の手をガツつかむんですな。つかんだらこれを離さ



図6：高尾太夫の墓。吉原に近い春慶院に眠っている

ない。大変なとこでしょ？ いかにもすごいお客の引っ張り方をしたか、名前を聞いただけでわかるんですけどね。

**お金がかかり過ぎた揚屋の制度**

ですからね、仲ノ町辺りの大籠とか惣籠とか言うんですけど、こういうところは揚屋みたいなところを通さないと、一切入れないんです。大変なお金がかかるわけでありまして。それこそ有名なところでは、高尾太夫なんておりますな。「君は今駒形あたりほととぎす」という歌を作った人ですけどね（図6）。こんな太夫と言われる人になると、松の位ですから、いろんな手順を踏んで、大金を使って、行かなきゃいけない。そういう時に例えば道中なんてあると、新造というものが付きます。遊女の見習いみたいな人を振袖新造といいますが、次が留袖新造。留袖の中で成績のいい人だけが次期花魁候補ということになるんです。それから番頭新造というのがいるんですね。もうそういう世界からは引退して、マネージャーみたいな役をやっているんですね。黒数珠なんか前にやって、帯の下に手を入れてね、付いてくるおばさんがいますわな。たいがいはお店の客が揚屋に行って、太鼓持ちだとか新造連中全部連れて、ワツと騒ぐんですね。そのうち、あんまりお金がかかるんで、揚屋制度というのがだんだん無くなってきて、引手茶屋というのになってきた。そこなら事

務的なことだけだと通れるようになる。太夫という言い方もだんだんなくなってきて、花魁という言い方になるんです。花魁ってというのはどっから出たかっていうと、「おらが太夫さん」。つまり花魁がいるとそれについているかむろから何から一団がいるわけですな。その一団が「おらが太夫さん」というのが「おいらん」になったというふうに言われています。

**目当ての遊女に会いに猪牙船で大急ぎ**

引手茶屋を通すのは大店だけです。中店と小店はすっと入れちゃう。だけどそれでもかなり急いで行かないと、目当ての人に先に客がついてるといけないので、急ぐわけですな。急ぐ時に、さっきの土手をてくてく歩いて行くよりは、チョキ船なんかでサーっと行っちゃおうってね。

チョキというのはジャンケンじゃないですよ。猪の牙と書きますけどね、舳先のところがスーッと細い高速艇ですな（図7）。櫓でもってずっと漕いで、土手のところをスーッと来るんです。早いうちに目的の人のところへ行かないとね、後ですごいのに当たっちゃったなんてこともあったそうです。吉原の話はすごい言葉がいっぱい出てくるんですけどね、「弱ったよ、人三化け七」なんて言って、ひどい言葉使うでしょ？ 人が三分で七分がお化けって言うんですけどね。大体ああいうところの言葉ってというのは、昔の人ですからね、すごい言い方をしたもんです。

図7：山谷堀公園にある猪牙船の縮小模型



**体重と同じ分の小判を求めた高尾太夫**

高い話でいうと、さっきの高尾太夫なんていうのは、高尾太夫の重さと同じだけの小判を積もってという話。仙台高尾、仙台藩の藩主に大変愛されて、迷惑して、本当は別に好きな人がいるのっていうね。この人なんかどうしても嫌なもんだから、無理難題をいっぱい言うんです。お店の人があったけのものをみんな着せたりしてね。高尾太夫がこんな着ぶくれをして座っていると、こちらにどんどん小判を積んでいって、重さがちょうど釣り合いの取れるところまで金を出したりして。それでも言うことを聞かなかったんで、最後は仙台公に斬り殺されてしまったんですけどね。

そういうのに比べて、先ほどの羅生門河岸や浄念河岸というのはいくらかという、大体50文から100文だったというんですね。昔のかけそばが16文ですよ。かけそば3〜4杯の値段ですよ。そりゃあすごいですよね。これがいわゆる二八そば、風鈴そばというやつですな（図8）。風鈴そばというのは、そば屋が肩に担いで、この天井の四隅に風鈴を付けるんです。それ以外のそば屋は、いろんなところには出設しないんです。博多の屋台ってというのは、いつもこの場所に出ますって決まっていますよ。風鈴そばってこのだけ、担いで辻々を歩き回る。そうすると四隅の天井に付いてる風鈴がちりんちりと鳴るんですね。

**かけそばが16文猪牙船は148文**

お蕎麦屋さんでは自分で打って、切って、茹でて、これを「三立て」って言うんですね。打ち立て、切り立て、茹で立て。この三立てというのがそばの信条なんですね。注文を受けてから打って切って茹でるわけですから、その間の時間つぶしにお酒を飲まなけりゃい



図8：二八そばの再現。これには風鈴は付いていない。深川江戸資料館にて

けない。お酒飲んでる時に俗にそば前というのがありましてね。おそばを食べる前に飲みながらちよいとつまむものをそば前というわけですね。板わさだとか焼いた海苔だとかね、そんなものでグイッとこやるんです。そば屋ってというのは、そば代はそんなに高くなくて酒代が高かったそうです。

「雪暮夜入谷畦道」というお芝居の中にもそば屋が出てきます。御家人崩れの直次郎が「天や卵の抜きでやるのもしみたれた話だから、こいつあ一番、またにしようか」なんてことを言うんですけどね。天の抜きってのは天の大抜きですからそばが抜きになるんです。大というのはそばのことですからね、そばが入ってないんですよ。天ぶらがそばつゆの中に入っているのを天の抜きといいます。天ぶらってのは本当は天つゆで食べるものを、そばつゆで食べるのが天の抜き。卵の抜きってのは、卵焼きは普通、しょうゆなんかをちよいとかけて食べたりするんですけど、そばつゆの中に入っていると、卵の抜きです。

とにかく風鈴そば4杯くらいの値段で、この辺りは大丈夫なんです。じゃあ猪牙船の値段はいくらだったという話になる。柳橋辺りから吉原まで急いで来させるのに148文、高いでしょ？ だから猪牙船に乗って行くようなところではないんですね。浄念河岸とか羅生門河岸は。猪牙船は中店くらいに行く人が、そういう手段を使ったのでしょうか。

(次号に続く)

# ウチのイチオシ!

## すし処 清司

### 江戸前寿司



中学を卒業してすぐに上京、修行に明け暮れるこの道一筋58年という清水昇さんが営む寿司店。江戸前寿司のおすすめは小肌、煮蛤、鯛昆布締め、鮪漬け、穴子ですが、「この号が出る秋冬は魚はどれでも旨いよ。穴子なんかは塩と甘ダレで味を変えて食べてみて」と話します。日本酒は寿司に合う辛口の純米酒を揃えているのも魅力。近頃はハイクラスなホテルに宿泊の外国人客も増えてきたそうですが、「外国語は喋れないけど、身振り手振りでなんとでもなるよ!」との答え。気さくな人柄が伝わります。

お店の紹介は P.21 地図 P.15  
 電 03-3872-7275 営 17:00~23:00  
 住 台東区浅草3-22-12 休 日  
<https://asakusa.gr.jp/?p=464>

## 桐生堂

### 組紐



武具や刀剣の飾りに多く用いた組紐。廃刀令で需要が激減し、群馬県桐生の組紐職人が明治9年に上京して創業したのが当店。現代では和装需要が中心でしたが、「近年は伝統文化の見直しで、それ以外のジャンルからの問い合わせも増えています。最近多いのはプレスレットなどのアクセサリ関連ですが、どの商品でも江戸の組紐らしい色使いは意識しています」と六代目店主の羽田雄治さん。「浅草店では組紐のみならず個人作家のかわいい作品も多数置いており、幅広いお客様に楽しんでいただきたいと思います」

お店の紹介は P.24 地図 P.14-B2  
 電 03-3847-2680 営 10:30~19:00  
 住 台東区浅草1-32-12 休 無休  
<https://kiriyudo.co.jp/>

## 常盤堂雷おこし本舗

### 生おこし (秋冬)



浅草の名物お菓子が爪楊枝で刺せるくらい柔らかい食感になったのが「生おこし」。「リニューアル当初にTVで取り上げられて製造が間に合わなくなり、私自身も毎日工房から抜けられなくなったこともありました」と専務取締役の穂刈雷太さん。通年で販売している「白蜜あずき・黒蜜きなこ」の他に、季節限定味も用意（秋冬は栗・いちご）。生おこしは直営店の雷5656 会館の工房で製造しており、製造工程の見学や雷おこしの製造体験もHPから予約が可能。「浅草に来る際には、お立ち寄りください」

お店の紹介は P.25 地図 P.15  
 電 03-3874-5656 営 9:00~17:30  
 住 台東区浅草3-6-1 休 月  
<https://tokiwado.tokyo/store/5656/>

## 和泉屋

### 猫せんべい



浅草で古くから続く老舗のおせんべい屋さんで作ったかわいいおせんべいが人気です。その名も「猫せんべい」。4代目の渋谷哲夫さんは「昔から代々飼ってきた猫をモデルに作りました。白猫、黒猫、海苔猫、茶猫など多種揃えています」と話します。「多くのお客様に楽しんでいただいております。猫を飼っている方へのプレゼントにも好評です」。ちなみにお宅には現在は「くろ」と「のりちゃん」がいるのだとか。もちろん、おせんべいの味も自信作。「良質の素材で昭和30年代からの製法で製造しております」



お店の紹介は P.24 地図 P.14-C1  
 電 03-3841-5501 営 11:00~18:30  
 住 台東区浅草1-1-4 休 木  
<https://www.asakusa-senbei.com/>



### 浅草寺境内石碑ガイド 浅草寺境内の主だった句碑・顕彰碑

- 1 川口松太郎の句碑**  
「生きるということは、むずかしき、夜寒かな」と刻む。
- 2 久保田万太郎の句碑**  
「竹馬やいろはにはへとちりぢりに」と刻む。
- 3 市川猿翁の句碑**  
「まだ身にははず衣がえ」という三代目市川猿翁の句を刻む。
- 4 河竹黙阿弥顕彰碑**  
歌舞伎狂言作者・河竹黙阿弥を顕彰して、台東区が建立した。
- 5 中村吉右衛門の句碑**  
「女房も同じ氏子や除夜詣」と刻む。
- 6 並木五瓶の句碑**  
「月花のたわみころや雪の竹」と刻む。
- 7 山東京伝机塚の碑**  
江戸時代後期の戯作者・山東京伝の愛用した文机が埋められた上に建てられたとされる碑。
- 8 釘供養碑**
- 9 団十郎「暫」の像**  
九代目市川團十郎の歌舞伎十八番「竹馬やいろはにはへとちりぢりに」と伝わる。「暫」の像。
- 10 映画弁士塚**  
無声映画時代の名弁士たちを記念して建立。
- 11 半七塚の碑**  
捕り物小説の生みの親である岡本綺堂を記念して建立。
- 12 三匠の句碑**  
宗因・芭蕉・其角という三人の佳句を刻む。
- 13 正岡子規句碑**  
「観音で雨に逢いけり花盛」と刻む。
- 14 芭蕉像と句碑**  
江戸時代後期の戯作者・山東京伝の愛用した文机が埋められた上に建てられたとされる碑。
- 15 旧五重塔跡碑**
- 16 浅草寺の神木-いちよう**  
源頼朝公が浅草寺参拝の折、挿した枝から発芽したと伝わる。昭和20年の東京大空襲で多くを焼失したものの、戦災をくり抜いた神木として大切にされている。
- 17 夫婦狛犬**  
二体並び寄り添う一対の狛犬。「良縁」「恋愛成就」「夫婦相合」の願いを込めて祀っている。
- 18 三柱の石碑**  
浅草神社に祀られている三神、檜前浜成・竹成、土師中知の名が刻まれている。
- 19 神木・槐の木**  
浅草寺御本尊の聖観世音菩薩が檜前浜成・竹成兄弟に網得された際、安置されたのが槐の木の子株。以来、絶えることなく自生する緑の深い木である。



- ### 中央部会員店
- 1 神谷バー
  - 2 雷門 三定
  - 3 浅草うまいもん あづま
  - 4 名代らーめん 与ろみ屋
  - 5 釜めし 麻鳥
  - 6 炭火会席 蔵
  - 7 お好み焼き 一丁目
  - 8 和風居酒屋 魚菜
  - 9 天ぷら 葵丸進
  - 10 三角
  - 11 鉢の木
  - 12 尾張屋
  - 13 弁天山 美家古寿司
  - 27 川松
  - 28 甘味処 彩夏
  - 29 甘味 みつや
  - 31 手焼きせんべい 和泉屋本店
  - 32 手焼きせんべい 和泉屋観音通り店
  - 33 浅草さびだんご あづま
  - 34 早田カメラ
  - 35 組紐 桐生堂
  - 36 手焼きせんべい 和泉屋仲見世店
  - 37 てぬぐい ふじ屋
  - 38 あげまんじゅう 浅草九重
  - 39 常盤堂雷おこし本舗
  - 40 刃物 かね惣
  - 41 舞扇 文扇堂雷門店
  - 42 舞扇 文扇堂仲見世店
  - 43 ミドリ屋
  - 44 木村家本店
  - 45 よのや櫛舗
  - 46 よ兵衛
  - 47 和装履物 浅草辻屋本店
  - 48 浅草の保健室ネオ
  - 49 江戸金銀工芸もり銀
  - 67 甘味 みつや 仲見世通り店
  - 68 壱番屋
  - 69 カリカチュア・ジャパン
  - 70 コマチヘア
  - 71 村石電気工事



- ### 北部会員店
- 14 レストランにいど・だもあれ
  - 15 料亭 都鳥
  - 16 すし処 清司
  - 50 祭礼用具 宮本卯之助商店本店
  - 51 株式会社製菓川喜多



毎年7月1日の富士の山開きで有名な浅間神社(せんげんじんじゃ)は、地元の人から「お富士さん」の愛称で親しまれている。江戸時代に各地に広がった富士浅間神社の信仰だが、浅草富士浅間神社は静岡県富士市から元禄年間に分社したもの。本殿外観は平成9年から10年の改修工事によって漆喰塗りが施されているが、内部には明治11年に建築された土蔵造りが残されている。毎年5月最終土日と6月最終土日に植木市が開かれ、浅草の年中行事として賑わいを見せる。

待乳山聖天(まつちやましようてん)は、正しくは待乳山本龍院という。境内のいたるところに大根と巾着を組み合わせた比翼紋があるが、これは健康増進などを祈願する聖天信仰の現れとされる。毎年恒例の大根まつりには多くの信仰者が訪れる。昔は待乳山の手前に隅田川が流れ、東都随一を誇る眺望の名所として知られた。現在はその眺めは見られないが、江戸末期に作られた長さ25メートルに及ぶ築地塀などが往時をしのばせる。



### 西部会員店

- 12 尾張屋
- 17 常寿司
- 18 天麩羅 中清
- 19 Bistro Kinukawa
- 21 すき焼 浅草今半
- 22 どぜう飯田屋
- 52 デイジー
- 53 渡辺眼鏡商店
- 54 足袋・祭用品 めうがや
- 55 祭礼用具 宮本卯之助商店西浅草店
- 56 ヤマダの家具
- 57 今昔きもの龍巳
- 58 まつもと履物店
- 70 コマチヘア

### 江戸たいとう伝統工芸館



ひさご通り内にある洒落たたずまの江戸たいとう伝統工芸館は、台東区の手仕事に生きる職人さんの技術・技法を紹介する文化施設。実演のスケジュールは、ホームページをご覧ください。  
<http://www.city.taito.lg.jp/index/kurashi/shigoto/jibasangyo/kogeikan/index.html>

### 久保田万太郎誕生の地



久保田万太郎は、明治22年11月7日にこの地に生まれ、大正3年慶応義塾大学文科を卒業するまでの26年間在住。昭和38年5月6日に永眠するまで、明治・大正・昭和の三代に亘り、下町の義理と人情を描いた小説・戯曲等を発表し、文学・演劇界に多大な功績を残した。



### 南部会員店

- 23 シーフードレストラン 月見草
- 24 ロシア料理 マノス
- 25 うなぎ 初小川
- 26 茶寮 一松
- 27 川松
- 30 魚熊水産
- 59 和菓子 龍昇亭 西むら
- 60 市川とうふ店
- 61 木彫 宗舟
- 62 書道用品 宝研堂
- 63 岡田屋布施

### 駒形堂



駒形堂(こまんどう)は、浅草寺のご本尊が隅田川から示現され、上陸された地に建てられたお堂で、浅草寺の発祥の地ともいえる。現在は、ご本尊として馬頭観音が祀られている。

### 岡崎屋勘六(勘亭流元祖)の墓



西浅草一丁目にある清光寺の境内に、勘亭流の元祖といわれる岡崎屋勘六(文化2年2月3日に59歳で没)の墓がある。勘六は、延享3年に江戸に生まれ、日本橋で書道塾を開いていた。号を勘亭といひ、安永8年に中村座新春狂言の看板を書いたことが評判を呼び、芝居文字として勘亭の書いた文字(勘亭流)が主流となったという。

### はなし塚



田原町駅近くの本法寺境内にある落語ゆかりの珍しい石碑。大戦中に各種芸能団体が演題を自粛した際、落語界でも演題の花柳界・酒・妾などに関する落語53種を禁演落語とした。はなし塚は、中に含まれた名作と先輩の霊を弔うために建立され、この塚の下には禁演落語の台本が納められた。戦後の昭和21年9月には、塚の前で禁演落語復活祭が行われた。



# 浅草槐の会・会員店紹介



## 1 神谷バー (雷門通り) ビアホール、レストラン、割烹 [地図 P.14-C1](#)



明治13年創業、明治45年「神谷バー」と屋号を改めた日本で最初のバー。名物デンキブランとともに皆様にご愛顧頂いております。お一人様には1階が、グループのお客様には2階レストランがお勧めです。

電 03-3841-5400  
住 台東区浅草1-1-1  
営 11:00~20:00 (L.O 19:30)  
休 火曜日  
<http://www.kamiya-bar.com/>



## 2 雷門 三定 (雷門通り) 天ぷら・和食 [地図 P.14-C1](#)



創業以来江戸前天ぷらの味を守り百六十余年、胡麻のきいた黒っぽい天ぷらですが、あと味が軽いのが身上です。店も仲見世の入口にあり、ご散策に大変便利。季節ごと変わる旬の天ぷらに江戸の粋を御堪能下さい。

電 03-3841-3200  
住 台東区浅草1-2-2  
営 11:00~20:30 (L.O 20:00)  
休 木曜日(変更あり)  
<http://www.tempura-sansada.co.jp>



## 3 浅草うまいもん あづま (新仲見世通り) 和食・寿司・甘味 [地図 P.14-B2](#)



なつかしい味の下町料理(和食、江戸前寿司、オムライス、自家製甘味…)を是非お楽しみ下さい。二階の掘りごたつ席での御宴会も大好評です。

電 03-3841-0190  
住 台東区浅草1-32-1  
営 平日11:00~21:00  
土日祝10:30~21:00  
休 不定休  
<http://aduma.tokyo>



## 4 名代らーめん 与ろぬ屋 (伝法院通り) らーめん [地図 P.14-B2](#)



醤油らーめん発祥の地、浅草で地元の方々に愛されて30年。豚骨・鶏ガラをベースに厳選した煮干・かつお節・昆布で仕上げほんのり柚子の香りの和風らーめんです。下町情緒と共に昔懐かしい醤油らーめんをお楽しみください。

電 03-3845-4618  
住 台東区浅草1-36-7  
営 11:00~21:00 (L.O 20:30)  
休 無休  
<https://www.yoroiya.jp>



## 5 麻鳥 (公会堂横通り) 釜めし・串焼き [地図 P.14-B2](#)



新潟県下田町より直送の100%コシカカリを新鮮な素材と共に一釜づつ心を込めて炊き上げます。地鶏串焼も福島伊達鶏を紀州備長炭で丁寧に焼き上げます。大切な方々のおもてなしにどうぞごゆっくり御賞味下さい。

電 03-3844-8527  
住 台東区浅草1-31-2  
営 平日11:00~21:30  
日祝日11:00~21:00  
休 無休  
<https://asa-kusa.jp/asadori>



**6 蔵 (公会堂横通り)** 炭火焼会席 地図 P.14 - B2



旬の素材を使ったお勧めの炭火焼会席コース、牛肉は和牛の特選焼物コース、アラカルトでは三陸産の鮑や伊勢海老などもございます。季節によって変わる焼魚も絶品です。焼物は全て炭火焼きで召し上がって頂きます。

電 03-3847-1129  
住 台東区浅草1-30-10  
営 11:30~22:00  
休 無休  
<https://asa-kusa.jp/kura>



**7 一丁目 (雷門柳小路)** お好み焼き 地図 P.14 - A1



新しい味の発見ですお好み焼きをわさび醤油・ポン酢・抹茶塩などお召し上がり下さい。もちろんソースも自家製ですから食べ比べてみては? 当店の材料は全て純国産品です。

電 03-3845-7566  
住 台東区浅草1-21-2  
休 月曜日  
ただし祭りの場合は火曜日  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/icchome.html>



**8 魚菜 (雷門柳小路)** 和洋居酒屋風レストラン 地図 P.14 - A1



魚菜ではテレビでも紹介された三陸産のアワビの肝ソース焼きが大人気です。一品およびコース料理もございます。大小のご予約を承っております。今話題の焼酎、黒糖・芋・麦・米も取り揃えております。

電 03-3842-1919  
住 台東区浅草1-17-9  
営 平日17:00~23:30  
日祝日12:00~22:30  
休 無休  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/uosai.html>



**9 葵丸進 (雷門通り)** 天麩羅、季節料理、寿司 地図 P.14 - A1



「旬の香に天麩羅でちよいと一杯」季節料理に天井・天麩羅、お椅子席・お座敷席・個室席。お好みのスタイルでおくつろぎください。浅草に行きつければ天麩羅屋はいかがですか。

電 03-3841-0110  
住 台東区浅草1-4-4  
営 11:30~21:00(LO20:00)  
休 月曜日  
(祝日の場合は翌日)  
<http://www.aoi-marushin.co.jp/>



**10 三角 (浅草中央通り)** ふぐ 地図 P.14 - A1



明治35年(1902)の創業以来、日本料理店として気取らず下町の味を守りたいと努力しております。ふぐさし、ふぐちり、煮凍り、唐揚、ひれ酒、白子、特に11月頃からの白子焼、白子刺身は大人気の逸品です。是非一度ご賞味下さい。

電 03-3841-7650  
住 台東区浅草1-20-7  
営 平日12:00~14:30/  
16:30~21:30  
土日祝12:00~21:30(LO20:30)  
休 水曜日  
<http://asakusa-sankaku.com/>



**11 鉢の木 (公会堂東通り)** 甘味・喫茶 地図 P.14 - C2



浅草寺に詣で、心躍る浅草の賑わいを巡る。熱気に煽られしばしの休息。あんみつ、おしろこ、いそべ巻き…。甘味を口にホッとひと息。夏のかき氷も人気です。くつろぎの和の空間にお立ち寄りください。

電 03-3843-6755  
住 台東区浅草1-34-7  
営 11:30~18:00  
休 水曜日  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/hachinoki.html>



**12 尾張屋** 日本そば 地図 P.14 - C1, P.16 - C1



幕末の創業以来、地元浅草の方々、観音様参詣の皆さまに広く愛されてきた老舗です。そばは、信州を中心に厳選した国産の一番粉、本かつお節のつゆ、胡麻油で揚げた天ぷらと、三位一体の美味しさです。

電 03-3845-4500(本店)  
03-3841-8780(支店)  
住 台東区浅草1-7-1(本店)  
台東区浅草1-1-3(支店)  
営 11:30~20:00(LO) 休 金曜日(本店)、水曜日(支店)  
<https://g615000.gorp.jp/>



**13 弁天山 美家古寿司** 寿司屋 地図 P.14 - C3



創業慶応2年(1866年)。酢飯、仕事を施した寿司ダネ、新鮮な山葵と煮き醤油、この4つのバランスによって寿司の美味しさを最大限に引き出す。江戸前すしの本来の仕事、にぎり、ツメ、ツケ、酢メ、昆布メなど、古典的技法を今もなお頑に守り続けております。

電 03-3844-0034  
住 台東区浅草2-1-16  
営 12:00~14:30(LO 14:00)  
17:00~21:00(LO 20:00)  
休 月、第3日曜日  
<https://benteniyama-miyakosushi.com>



**14 にいど・だもおれ (浅草猿若町市村座跡)** レストラン 地図 P.15



昔の市村座の跡にあるお店です。夜は新鮮な魚介類のお料理で(活タラバガニ等)、お仲間だけの空間をお楽しみ下さい。

電 03-3874-7561  
住 台東区浅草6-18-13  
小竹猿若町レジデンス1階  
営 ランチ11:00~14:00、ディナー  
1日1組予約のみ17:00~22:00  
休 日祝  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/nidodamore.html>



**15 都鳥 (浅草観音裏)** 料亭 地図 P.15



江戸開府四百年、だからこそ江戸の昔を体験してみませんか。花柳界の楽しさをもっと知って頂きたいと、江戸の遊びのコースを考えました。お客様には和服でお越し頂くなど、一緒に御趣向を楽しみませんか。

電 03-3874-2175  
住 台東区浅草3-23-10  
営 18:00~ 要予約  
休 土日祝日  
<https://miyako-dori.com/>



**16 すし処 清司 (浅草観音裏)** 寿司 地図 P.15



すしは日本の食文化。にぎる人の心がお客様に通ってこそ本物だと思います。特に江戸前の小肌、蛤鱒は逸品です。鱈はもちろん本まぐろです。一味も二味も違うお寿司を是非ご賞味下さいませ。

電 03-3872-7275  
住 台東区浅草3-22-12  
営 17:00~23:00  
休 日曜日  
<http://www.asakusa.gr.jp/shop/seiji.html>



**17 常寿司 (ためき通り)** 寿司 地図 P.16 - C1



屋台の鮓屋が提供していた昔懐かしい鮓。その味を、今も変わらず作り続けています。肩肘を張らずに、気軽に江戸前寿司を楽しみたい方、お褒め致します。是非お越し下さい。

電 03-3844-9955  
住 台東区浅草1-15-7  
営 11:30~21:00 休憩なし  
休 月曜日  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/tsuneshushi>



18 中清 (オレンジ通り)

天ぷら会席 地図 P.16-C2



数寄屋造りの離れ座敷で昔から変らぬ味の江戸前天麩羅をごゆっくりご賞味下さいませ。

電 03-3841-4015  
住 台東区浅草1-39-13  
営 平日11:30~14:00,17:00~21:00 土日祝11:30~20:00  
休 火曜日、第2、第4水曜日  
<http://www.nakasei.biz/>



19 Bistro Kinukawa

フランス料理 地図 P.16-B1



新鮮な魚料理と契約農家直送の有機野菜をお楽しみいただけるフレンチのお店です。ワインはもちろん、焼酎や日本酒もございます。下町ならではの居心地の良い空間で、素材にこだわった「おさかなフレンチ」をご堪能下さい。

電 03-5828-3313  
住 台東区西浅草2-16-4  
営 平日12:00~15:00, 17:00~22:00  
休 火曜日



21 浅草今半 (国際通り本店)

すき焼、しゃぶしゃぶ、日本料理 地図 P.16-B2



厳選された黒毛和牛と秘伝の割り下で、焼くように煮るすき焼きが浅草今半流。ランチタイムサービスの「明治すき焼丼」と「ステーキ丼」は、浅草の隠れ銘丼とも…。納得の味をお届けいたします。

電 03-3841-1114  
住 台東区西浅草3-1-12  
営 11:30~21:30 (LO 20:30)  
休 年中無休



<https://www.asakusaimahan.co.jp/>

22 どぜう飯田屋 (合羽橋本通り)

どぜう料理 地図 P.16-B2



磨き込まれた藤敷きに胡坐をかいてどぜう鍋一刻文豪気分です

電 03-3843-0881  
住 台東区西浅草3-3-2  
営 平日 11:30~15:00, 16:00~21:00 (LO 20:30) 土日祝 11:30~15:30, 16:30~21:00 (LO 20:30)  
休 水曜日、祝物日は前後振替 <https://dozeu-iidaya.com>



23 月見草 (浅草並木通り)

シーフードレストラン 地図 P.17-C2



魚介類を中心とした旬の食材を取り入れたシーフードレストラン。一番の人気を誇るのは鮑のステーキ、水槽の中で生きているものをすぐに調理し丸ごと一つを鮑の肝で作った自慢のオリジナルソースをかけてどうぞ。

電 03-3841-8949  
住 台東区雷門2-11-8  
営 11:30~22:00  
休 無休



<https://asa-kusa.jp/tsukimiso/>

24 マノス

ロシア風レストラン 地図 P.17-B2



「ロール・キャベツ?いや!キャベツ・ロールです」。創業以来、作り続けて35年。元祖キャベツ・ロールといえば浅草マノス。料理は良い素材と美味しいものを作るという気持ち!今一度、おた召しあれ~!

電 03-3843-8286  
住 台東区雷門2-17-4  
営 11:30~22:30 (LO 21:00) ただし平日15:00~16:30準備中  
休 火曜日  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/manos>



25 初小川 (雷門仲通り)

鰻蒲焼き 地図 P.17-B2



明治40年の創業以来継ぎ足し使っている辛口のタレを使った鰻は、注文を受けてからさばき、蒸してから焼く。江戸前風七輪の炭で焼いた鰻はムダな脂が落ち、身もふっくらやわらかで上品な味わいです。

電 03-3844-2723  
住 台東区雷門2-8-4  
営 平日12:00~14:00,17:00~20:00 日祝17:00~20:00  
休 不定休  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/hatsugawa.html>



26 茶寮 一松 (万太郎横町)

会席料理 地図 P.17-B2



ご宴会に、季節の色で盛り付けされた茶寮一松での会席料理はいかがでしょうか。お昼のミニ会席や料亭ウエディングプランなどもご用意しております。しばし浮世を離れ、浅草ならではの粋なひと時をお楽しみ下さい。

電 03-3841-0333  
住 台東区雷門1-15-1  
営 11:30~22:30  
休 月曜日



<https://www.ichimatsu.co.jp>

27 川松

鰻、日本料理 地図 P.17-B2



雷門から10軒目、厳選した国産鰻を使用した日本料理店です。創業明治6年、伝統の味とおもてなしの気持ちを受け継いでおります。看板メニューの富貴(3代目女将の名前)は様々な鰻料理をお楽しみ頂けます。

電 03-3841-1234  
住 台東区浅草1-4-1  
営 11:30~15:00 (LO 14:30) 17:00~21:00 (LO 20:00) 土日祝11:30~20:00 (LO 19:15)



休 月曜日 <https://asakusa-kawamatsu.com/>

28 甘味処 彩夏 (新仲見世通り)

かき氷、あんみつ 地図 P.14-B2



新仲見世通りの路地にある甘味処です。季節のフルーツを使ったかき氷やあんみつがおすす。浅草散策の際にぜひお立ち寄りください。

電 03-3843-5199  
住 台東区浅草1-32-3  
営 11:00~19:00  
休 無休



29 甘味 みつや (観音通り)

甘味処 地図 P.14-B2



自家製みつにこだわり、白玉やかき氷(夏季限定)、寒天などの昔ながらの日本の甘味をご提供しています。

電 03-3843-5199  
住 台東区浅草1-32-13  
営 平日12:00~17:00 (LO 16:30) 完売次第閉店 土日祝11:00~18:00 (LO 17:30) 完売次第閉店

休 不定休  
[https://www.instagram.com/kanmi\\_mitsuya/](https://www.instagram.com/kanmi_mitsuya/)



## 30 魚熊水産

ふぐ・魚料理 地図 P.17-B1



鮮魚全般、お刺身・お惣菜を中心に販売。河豚(ふぐ)や天然生本鮪など高級鮮魚も常時販売しております。また、魚熊水産では、1日1組限定の完全貸切の隠れ家「魚熊倶楽部」を併設しております。(要予約)

電 03-3851-5914  
住 台東区蔵前3-20-5  
営 11:00~19:00  
休 日曜、祝日  
魚熊水産: <https://uokuma.com/>  
魚熊倶楽部: <https://uokuma.com/page/club>



## 31 和泉屋本店 (観音通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14-C1



良質の食材(もち米・うるち米・醤油・天然塩等)を使った、あられ、手焼きせんべい、おかきを製造しています。缶・和紙箱・竹籠の御進物セットが人気です。

電 03-6802-7710  
住 台東区浅草1-1-4  
営 10:30~19:30  
休 木曜日  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>



## 32 和泉屋観音通り店 (観音通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14-C1



このところ、堅焼の人氣が復活しています。天日干しの「厚焼せんべい」。もち米の「風神雷神」。堅焼の定番げんこつ等、リピーターのお客が増えています。

電 03-3841-8385  
住 台東区浅草1-1-6  
営 10:30~19:30  
休 木曜日  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>



## 33 浅草きびだんご あづま (仲見世通り)

きびだんご 地図 P.14-B1



江戸時代、観音様の参道・仲見世で繁昌した門前のきびだんごを再現しております。粋ないさんと下町娘たちのきびだんご作りの実演もご覧下さい。夏の冷し抹茶や冬の甘酒も大評判です。

電 03-3843-0190  
住 台東区浅草1-18-1  
営 9:00~19:00  
休 無休  
<http://aduma.tokyo/kibidango/>



## 34 早田カメラ (伝法院通り)

カメラ 地図 P.14-C3



浅草で創業68年になるクラシックカメラ店です。世界中のフィルムカメラを取り扱っており、博物館にあるようなカメラも置いています。仕入れた商品はすべて自店で整備して販売を行っています。

電 03-3841-5824  
住 台東区浅草2-1-3  
営 11:00~19:30  
休 木曜日  
<http://www.photobazar.jp>



## 35 桐生堂 (浅草メトロ通り)

組紐、和雑貨 地図 P.14-B2



当店は、商品も手作りですが内装も手作り、材木を切ったりニスを塗ったり、気ままに楽しんでいます。竹を買って店の外側に取り付けました。下に風知草を置いて、なかなか良く出来たと思っています。

電 03-3847-2680  
住 台東区浅草1-32-12  
営 10:30~19:00  
休 無休  
<https://kiriyudo.co.jp>



## 36 和泉屋仲見世店 (仲見世通り)

あられ、手焼せんべい、おかき 地図 P.14-B2



約100種類のあられ、手焼せんべい、おかきを販売しています。江戸情緒あふれるパッケージ(江戸童(わらべ)絵・日本人形・雷門)の土産が人気です。

電 03-3844-2687  
住 台東区浅草1-37-1  
営 10:30~19:30  
休 木曜日  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/izumiya.html>



## 37 ふじ屋 (弁天山側)

てぬぐい 地図 P.14-B3



四季の草花、歌舞伎、歳時記などのオリジナル染絵でぬぐいを額装したインテリアや、江戸時代より「そめぎれ染布」として暮らしの中で使われてきた江戸小紋などで、てぬぐいを生かした粋な暮らしをお楽しみ下さい。

電 03-3841-2283  
住 台東区浅草2-2-15  
営 11:00~17:00  
休 木曜日  
<https://tenugui-fujiya.jp>



## 38 浅草九重 (仲見世通り)

あげまんじゅう 地図 P.14-B3



「浅草寺から三軒目」浅草九重はあげまんじゅうの実演販売のお店です。国産大豆を原材料とし、最高級のごま油を使用しています。日持ちのするお土産用のラインナップも充実し、国内はもちろんのこと、海外のお客にも人気です。

電 03-3841-9386  
住 台東区浅草2-3-1  
営 9:30~19:00頃  
休 無休  
<https://agemanju.jp>



## 39 常盤堂雷おこし本舗 (雷門通り)

雷おこしを主とする菓子 地図 P.14-B1



今も変わらず下町ならではの粋や人情にふれあう事の出来る浅草において、下町の心・伝統の味を守り続ける常盤堂。江戸銘菓「雷おこし」家を「おこし」名を「起こす」という縁起の良から長い間、浅草のお土産として親しまれております。

電 03-3841-5656  
住 台東区浅草1-3-2  
営 10:00~18:30  
休 無休  
<https://www.tokiwado.tokyo>



## 40 かね惣 (雷門柳小路)

刃物 地図 P.14-B1



プロ仕様から家庭用まで各種取り揃えております。創業(明治6年)以来、伝承されてきた古式鍛錬秘法の切れ味を一度お試し下さい。また、ご婚礼祝い、仏事のお返しなどにもご利用ください。

電 03-3844-1379  
住 台東区浅草1-18-12  
営 11:00~19:00  
休 不定休  
<https://www.kanesoh.com>



## 41 文扇堂雷門店 (雷門柳小路)

舞扇、うちわ等 地図 P.14-B1



扇専門店として当代で四代。各流派の舞踊家、歌舞伎の役者さん、芸者さんや落語家さんなど多種多彩な方にお越し頂いています。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわもあるお店です。気楽にお立ち寄りください。

電 03-3841-0088  
住 台東区浅草1-20-2  
営 10:30~17:00  
休 毎月20日過ぎの月曜日  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>





## 42 文扇堂仲見世店 (仲見世通り)

舞扇、うちわ等 地図 P.14-B2



雷門店同様に、古典芸能のプロの方をはじめ多くのお客様に御愛顧頂いております。普通の扇や木版刷りの祝儀袋、うちわなども御用意しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

電 03-3844-9711  
住 台東区浅草1-30-1  
営 10:30~17:00頃  
休 毎月20日過ぎの月曜日



<https://www.asakusa.gr.jp/shop/bunsendo.html>

## 43 ミドリ屋 (公会堂横通り)

舞踊衣装 地図 P.14-B2



舞踊衣装のこなら当店にお任せ下さい。豊富な品揃えと驚きの低価格で、きっとご希望の品が見つかります。その他、お稽古着・反物も多数取り揃えておりますので、是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3843-1441  
住 台東区浅草1-30-11  
営 10:00~18:00  
休 火曜日



<https://midoriya1949.com>

## 44 木村家本店

人形焼 地図 P.14-A2



人形焼の木村家本店です。仲見世通り奥の浅草寺様に一番近い角で営業しております。当店の人形焼の形は五重塔、雷様、提灯、鳩の4種で浅草を表現しております。どうぞ昔から変わらない木村家本店の人形焼をご賞味ください。

電 03-3841-7055  
住 台東区浅草2-3-1  
営 9:00~18:00頃  
休 不定休



<http://www.kimura-ya.co.jp/>

## 45 よのや櫛舗 (伝法院通り)

黄楊櫛、黄楊製品 地図 P.14-A2



伝法院通りにあり浅草寺、六区方面から大変に便利です。小店舗ですがつげ櫛の種類も豊富で、また櫛やかんざしの使い方も丁寧にアドバイスさせて頂いております。是非一度御来店下さい。

電 03-3844-1755  
住 台東区浅草1-37-10  
営 10:30~17:00  
休 水曜日  
(月2回程、火水連休あり)



<https://yonoya.com>

## 46 よ兵衛 (仲見世通り裏)

揚餅・お団子 地図 P.14-B3



サクッと軽くお味はしっかり。昔懐かしい母の味「揚餅」を食べていただくため、無駄なものは一切加えず、素朴で香ばしい味を再現しています。お味は生醤油やしお、カレー、生醤油唐辛子など6種類。是非ご賞味あれ!

電 03-3841-0868  
住 台東区浅草2-2-7  
営 10:00~18:00  
休 不定休



<https://www.asakusayohei.com>

## 47 浅草辻屋本店 (伝法院通り)

和装履物 地図 P.14-B2



浅草花柳界をはじめ、和装にうるさいお客様に愛され育てられて百年目。長く履いても痛くならず疲れぬ、熟達した職人の技が生きた鼻緒のすげ。「浅草好み」の履物を豊富な品数で取り揃えております。

電 03-3844-1321  
住 台東区浅草1-36-8  
営 10:00~18:00  
休 木曜日



<https://www.getaya.jp/>

## 48 浅草の保健室ネオ (馬道通り)

クスリ 地図 P.14-C3



浅草で創業63年のくすり屋です。一般薬・健康食品・ヒノキ肌粧品など取扱っております。なんでもお気軽にご相談くださいませ。

電 03-3841-5329  
住 台東区浅草2-1-15  
営 月~金9:30~19:00  
土9:30~18:00  
休 日曜日



<https://www.neo-ph.com>

## 49 江戸金銀工芸もり銀 (オレンジ通り)

銀製品全般 地図 P.14-A2



日本の金銀工芸は西暦600年代より始まり、江戸時代に入って花開きました。現在もその時代からの手法を引き継いで、銀の食器類・アクセサリーetcを自家製作販売をしております。日本の伝統文化を表す品々と自負しております。

電 03-3844-8821  
住 台東区浅草1-29-6  
営 11:00~18:00  
休 12月31日



<https://asakusa.gr.jp/shop/morigin.html>

## 50 宮本卯之助商店本店 (吉野通り)

太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.15



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3873-4155  
住 台東区浅草6-1-15  
営 10:00~17:00  
休 土日祝日



<http://www.miyamoto-unosuke.co.jp>

## 51 株式会社製菓川喜多

菓子製造、販売 地図 P.15



弊社は戦後まもなく川喜多忠之助により、おこし製造から始まりました。駅、高速SA等でおなじみの「東京サンド」等の問屋様への卸売販売、老舗様のOEM製造を中心としてきたが、現在では「浅草の菓子屋」になりきろうと、「浅草川喜多」の名前で洋菓子の製造・販売に重点を置いております。工場直販です。

電 03-3875-0013  
住 台東区浅草5-56-4  
営 9:00~17:00  
休 日・祝日(土曜日不定休)



<https://www.s-kawakita.co.jp>

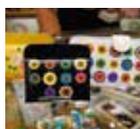
## 52 デイジー (新仲見世通り)

バッグ、小物 地図 P.16-C1



魅力的な貴女をより輝かせるバックと小物。デイジーはそんな貴女にピッタリカラフルな品揃えで、心までウキウキ間違いナシです。オリジナル品を中心としたオサイフや札入れも個性的な貴女にピッタリ特注・別注・修理も大歓迎です。

電 03-3847-8118  
住 台東区浅草1-22-10  
営 10:30~18:00  
休 不定休



<https://www.asakusa-shinnaka.com>

## 53 渡辺眼鏡商店 (ためき通り)

めがね 地図 P.16-C1



創業明治20年の眼鏡専門店です。オリジナルフレーム、アンティークフレーム、眼鏡ケース、眼鏡チェーンなど他所には無いものをお探しの方はちょっと覗いてみて下さい。眼鏡修理も承っております。

電 03-3841-7466  
住 台東区浅草1-16-7  
営 09:30~18:30  
休 火曜日



<http://www.watanabemegane.com>





54 めうがや (言問通り)

足袋、祭用品 地図 P.16-C3



“めうがや”と書いて「みょうがや」。旧仮名で“どぜう”を「どじょう」と読むのと同じです。夏に麻足袋、柄足袋も多種揃っています。お祭には、オリジナルの祭用品で粋にキメて下さい。

電 03-3841-6440  
住 台東区浅草2-27-12  
営 10:30~18:00  
休 水曜日(不定休あり)  
<https://meugaya.jp>



55 宮本卯之助商店西浅草店 (国際通り)

太鼓・神輿、祭礼用具 地図 P.16-B1



文久元年(1861年)創業、伝統的な製法を頑なに守り続け、その華麗さ、堅牢さには定評があります。また、邦楽教室を行う「宮本スタジオ」や世界の太鼓資料館「太鼓館」など、様々な活動にも取り組んでいます。

電 03-3844-2141  
住 台東区西浅草2-1-1  
営 10:00~18:00  
休 火曜日  
<https://www.miyamoto-unosuke.co.jp/>



56 ヤマダの家具 (羽橋通り)

家具・内装工事・リフォーム 地図 P.16-A2



飲食店のイス・テーブルの製造販売と内装工事を承っております。最近ではイスの張替、リフォーム工事等、大変好評です。お見積りはもちろん無料ですので、大小にかかわらずどうぞご相談ください。

電 03-3843-6656  
住 台東区松が谷3-2-12  
営 10:00~17:00  
休 土・日・祝  
<https://www.yamada-no-kagu.jp>



57 今昔きもの龍巳 (オレンジ通り・伝法院通り角)

着物 地図 P.16-C2



龍巳では大正・昭和のアンティーク着物から、最近のリサイクル着物・帯などを格安にて販売しております。本店・龍巳にて婚礼衣装の一式レンタルも格安で承っております。

電 03-3843-7606  
住 台東区浅草1-39-11  
営 10:30~19:00  
休 無休  
<https://asakusa.gr.jp/jp/?p=742>



58 まつもと履物店 (浅草ひさご通り)

和装履物専門店 地図 P.16-B3



自店で仕上げた草履、下駄、雪駄等を商う和装履物専門店。1899(明治32)年、浅草千束町二丁目にて創業。代々継承される職人技術と徹底した品質管理を経た、(株)まつもと履物店の和装履物をぜひ一度、お試しください。

電 03-3841-2461  
住 台東区浅草2-22-11  
営 11:00~18:30  
休 火曜日  
<https://www.wasou-hakimono.com/>



59 龍昇亭西むら (雷門通り)

和菓子司 地図 P.17-C2



看板の栗むし羊かんはもちろん、大桃山金龍、東京かすていら、昇り鮎など浅草の催事と、季節に因んだ品々は大人気です。創業は江戸中期と古く、安藤広重の「雷門前図」にもお店が描かれています。

電 03-3841-0665  
住 台東区雷門2-18-11  
営 09:30~18:30  
休 火曜日  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/nishimura.html>



60 市川とうふ店 (万太郎横町)

豆腐 地図 P.17-B2



浅草の老舗飲食店への卸を中心に、国産大豆にこだわり手作り豆腐一筋三代にわたるお店です。店頭での販売ではなく“おぼろ豆腐”が人気です。水にまったくさらさない、大豆風味豊かな味を一度御賞味下さい。

電 03-3841-1357  
住 台東区雷門1-14-3  
営 5:00~19:00  
13:00~16:00は休憩  
休 水曜日  
<https://www.asakusa.gr.jp/shop/tofu.html>



61 宗舟 (浅草消防署手前右入る)

木彫刻 地図 P.17-B2



初代より百年以上にわたり社寺、仏像、置物などの木彫刻を専門に手掛けてきました。一階はギャラリーで、大黒様や聖観音菩薩など仏彫刻、根付け、小盆なども展示しております。お気軽にお立ち寄り下さい。

電 03-3845-0458  
住 台東区寿4-12-2  
営 9:00~17:00  
休 日曜日・祝日  
<http://so-syu.jp>



62 宝研堂 (江戸通り駒形どぜう裏)

書道用品専門店 地図 P.17-B2



ご愛用の硯を研ぎ直し目立てをします。面を整地し直し厳選された砥石をかけ、仕上げに丸一日かけます。これを行うと行わないのでは、使用感、見た目にも驚くほどの違いが出ます。是非一度お試し下さい。

電 03-3844-2976  
住 台東区寿4-1-11  
営 月~土10:00~18:00  
日10:00~17:00  
休 第1・3を除く日曜日・祝日  
<http://houkendo.co.jp>



63 岡田屋布施 (国際通り)

太鼓・神輿・仏壇仏具・御宮神具 地図 P.17-A2



創業天保6年(1835年)以来、浅草田原町で太鼓・神輿の製造・修理、また仏壇仏具・御宮神具など数多く販売しております。神事や仏事そして郷土芸能に至るまで、日本の伝統文化にまつわる商品はぜひ岡田屋布施へ。

電 03-3841-1867  
住 台東区雷門1-16-5  
営 10:00~18:00  
休 水曜日  
<https://www.taikoya.co.jp>  
<https://butsudan-okadaya.com>



64 吉徳の人形 浅草橋本店

人形 地図 P.18-B1



創業正徳元年(1711年)。「人形は顔がいのち」の吉徳では、雛人形・五月人形をはじめ、日本人形やかわいいぬいぐるみ、季節の小物などを多数取り揃えております。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

電 03-3863-4419  
住 台東区浅草橋1-9-14  
営 9:30~17:15(1/2~5/5は9:30~18:00)  
休 不定休(1/2~5/5までは無休)  
<https://www.yoshitoku.co.jp>



65 人形の久月 浅草橋総本店

人形専門店 地図 P.18-B2



浅草橋総本店では、お節句の時期は、1階から3階フロアに地域一番の商品を揃えております。人形は飽きのこない、つまり、全体のバランスがとれている物を選び頂く事が大切です。是非、皆様のご来店をお待ち申し上げます。

電 03-5687-5176  
住 台東区柳橋1-20-4  
営 9:15~17:15  
(11/1~4/30は9:15~18:00)  
休 無休  
[kyugetsu.com/shop/13647](http://kyugetsu.com/shop/13647)





## 66 鮎佐

佃煮専門店 地図 P18-B3



佃煮はもとも、魚介類を海水で一緒に煮た佃島の漁師の保存食であったと云われています。鮎佐の創業者である初代 大野佐吉が、食材ごとに醤油で煮込む佃煮を発案したことで、鮎佐は「佃煮の元祖」として文久2年(1862年)の創業以来商いを続けて参りました。鮎佐の佃煮の特徴であるスッキリとした味は、歴代当主に受け継がれてきた一子相伝の製法によるもので、現在は5代目大野佐吉が自ら釜場に立ち、江戸時代から変わらぬ鮎佐の製法で佃煮を製造しております。ぜひ、本物の江戸の味をご賞味ください。

電 03-3851-7043  
住 台東区浅草橋2-1-9  
営 9:00~17:00  
休 日曜日・祝日



<https://www.funasa.com>

## 67 甘味 みつや 仲見世通り店 (仲見世通り)

甘味 地図 P14-B1



自家製みつにこだわり、白玉の新たな楽しみ方を提供する、お土産、お持ち帰り出来る「白玉手箱」を販売しております。

電 03-5246-3351  
住 台東区浅草1-18-1  
営 11:00~18:00 完売次第閉店  
休 不定休

[https://www.instagram.com/kanmi\\_mitsuya/](https://www.instagram.com/kanmi_mitsuya/)

## 68 壺番屋

手焼きせんべい、雷おこし 地図 P14-B2



手焼せんべい、雷おこしの壺番屋です。浅草仲見世通り、雷門と宝蔵門のちょうど中間ほどに御座います。職人が炭火で香ばしく焼き上げた、浅草の意気が詰まった粋な味をお楽しみください。心よりお待ち申し上げます。

電 03-3842-5001  
住 台東区浅草1-31-1  
営 8:00~18:00  
休 無休



<https://www.senbei-yaketayo.com>

## 69 カリカチュア・ジャパン

似顔絵 地図 P14-B2



当店のコンセプトは「浅草の楽しい思い出を絵でお持ち帰り頂く」。また、アーティストが描いたイラストをバックに記念撮影も！皆様の来店を心よりお待ちしております。浅草限定の季節の背景と一緒に描き描きます！

電 03-5830-7220  
住 台東区浅草1-37-6  
営 11:00~19:00 (18:30受付終了)  
休 ホームページで毎月お知らせ



<https://caricature-japan.com>

## 70 コマチヘア (第一店・新仲見世通り、第二・三店・仲見世通り) かつら・頭飾品 地図 P14-B2, P14-B3, P16-C1



コマチヘアは浅草で大正14年創業の老舗かつら、かんざし専門店です。自社工場を活用しヘアピースからオーダーメイドウィッグまで全てのお客様の声にお応えします。かんざしは普段使いから舞台用まで国内唯一の品揃えを誇ります。

電 03-3841-8191 (第一店)、5523 (第二店) 7434 (第三店)  
住 台東区浅草1-28-3 (第一店)、1-31-1 (第二店) 2-3-1 (第三店)  
営 10:30~19:00 (第一店) 9:30~18:00 (第二店) 9:30~18:00 (第三店)  
休 無休 <https://www.komachi-hair.co.jp>

## 71 村石電気工事 (仲見世会館そば)

電気工事業 地図 P14-B2



右の写真は当社が電気工事をした、汐留シティーセンタービル41階のFISHBANK(フランス料理店)です。このような工事を手がけ、また特殊ランプ等も販売しています。是非一度お立ち寄り下さい。

電 03-3845-2345  
住 台東区浅草1-32-9  
営 08:00~17:00  
休 日曜日



<https://www.asakusa.gr.jp/shop/muraishi.html>

## 御神木「槐」の木の由来(ごしんぼく「えんじゅ」)



槐は中国原産の豆科の落葉高木で、高さは10mにもなります。初夏黄白色の蝶形の花を付け、中国では記念樹として植えられますが、日本では街路樹などにも多く植えられています。浅草寺境内の槐の木は、枯れては生えているので絶えることがないそうです。浅草寺のご本尊の聖観音菩薩は推古天皇の頃、漁師であった檜前浜成・竹成兄弟により網得されて川辺の槐の木の切株に安置されましたが、土師仲知が自宅内に堂を設けて観音様をお祭りしたのが浅草寺の起こりだと伝えられています。また、仲知達の子孫が3人を神様としてお祭りしたのが三社権現社です。

## 槐の会からのお知らせ

浅草槐の会(あさくさえんじゅのかい)は、浅草寺のご本尊の聖観音菩薩が、推古天皇36年(628年)3月18日、隅田川で示現され、槐の木の切り株(現在の駒形堂あたり)に安置されたといういわれから“浅草槐の会”と称しました。浅草槐の会では、楽しい浅草情報を、ホームページ、瓦版、などで紹介いたしております。また、四季折々の浅草を自由に、楽しく散策していただきたく、地図、歳時、名所、旧跡を中心に編さんした『日本の扉浅草』を刊行いたしております。この冊子が、皆様の浅草散策のお役に立てば幸いです。

※この冊子は、槐の会会員店舗にて無料配付しております。



えんじゅ 浅草槐の会事務局

## 浅草文化観光センター



台東区浅草文化観光センターは、浅草寺を中心とする浅草の文化的遺産の保護・再発見に努めるとともに、広く全国に紹介するための施設。浅草の持つ特有の庶民文化や行事等の故事来歴などを紹介している。2012年4月20日(金)にリニューアルオープンしました。  
開館時間午前9:00~午後8:00(年中無休)

## 台東区観光ボランティアガイド

台東区では、観光に来られた方の案内役として「観光ボランティアガイド」制度を設けています。利用できる人数は、2~3名の小グループから団体まで幅広く、「浅草寺を中心とした思わぬ発見コース」など、さまざまな相談に応じてコースを設定してご案内しています。台東区観光ボランティアガイドに関する詳しいお問い合わせ、お申し込みは次のところまで。

台東区観光ボランティアガイド事務局

☐ TEL: 03-3842-5599 FAX: 03-6673-3046  
☐ ホームページ <http://www.taitouboragai.com>

